



板五小だより

夢がつながる学びのエリア
(板橋第五小・板橋第十小・板橋第二中)

板橋区立板橋第五小学校
4月号(令和8年度)
令和8年4月8日
発行:校長 西谷 秀幸



板五小ホームページ
QRコード

「どの子も我が子、どのクラスの子も我がクラスの子」

～令和8年度も、全教職員で教育活動を推進していきます～

校長 西谷 秀幸

お子さまの御入学、並びに御進級、おめでとうございます。本日、60名の1年生と3名の転入生を迎え、全校児童365名、全13学級で令和8年度がスタートしました。

本校の教育目標、及び、板橋第十小学校、板橋第二中学校との「夢がつながる学びのエリア」における「めざす子ども像」は、以下の通りです。

板橋第五小学校の教育目標

- ともに高め合う子 …互いのよさを認め、違いを受け入れて協力できる児童:「徳育」
- 学びを楽しむ子 …見通しをもって、自ら主体的に「学ぶ」児童:「知育」
- 明るくたくましい子 …自己肯定感が高く、心身ともに健康な児童:「体育」

「夢がつながる学びのエリア」のめざす子ども像

- 自ら考え、見通しをもって取り組み、心身ともに健康で思いやりの心をもって接することができる子

また、今年度も引き続き、学校経営における基本方針の柱を以下の3つとします。

- ① 授業と学校生活が楽しい学校
- ② 見通しをもって、主体的に取り組む学校
- ③ 違いを受け入れ、互いに協力できる学校

学習指導要領のキーワードの1つでもある「主体的」とは、「すすんで」「一生懸命」「意欲的」とは似て非なるもので、「見通しをもつ」「自らの学習状況や取組状況を俯瞰(ふかん)したり振り返ったりして自ら調整して補う」などの意味があります。子供たちは、与えられたことや決められたことを意欲的に取り組むのが得意な反面、この「主体的に取り組むこと」には苦手意識をもっている…。これは、板五小の子供たちも例外ではありません。

また、「自分との違いを受け入れ、互いにリスペクトしながら協力する」ことは口で言うのは簡単ですが、我々大人でも実行するのは決して容易なことではありません。

私たちが育てる小学生は、20年後、30年後に、間違いなくこの日本を支える世代です。そんな子供たちが、AIによって世の中が大きく変わることが予想される近未来においても、AIに操られることなく、AIやプログラミングなどを効果的に駆使しながら、国籍や文化が異なる他者と協力して、より良い社会を形成していける人になるように、これらの視点を重視して教育活動を推進していきます。

各クラスには担任がいて、担当する教科等がありますが、本校では「どの子も我が子」「どのクラスの子も我がクラスの子」と思い、全教職員が担任のつもりで教育活動を推進することで、1年後に子供たちの成長を実感していただけるようにしたいと思います。今年度も、本校の教育活動に御理解と御協力をよろしく願います。

さて、本日、「1つ上の学年になったぞ。よし今年も頑張ろう。」という気持ちで登校してきた子供たちに、この1年間、特にがんばってほしいことを3つ話しました。

① 楽しい学校生活を、自分たちでつくろう

誰かに何とかしてもらうのではなく、自分たちの手で、楽しいクラス・楽しい学年を作って、楽しい学校生活を送りましょう。

② 友達のよいところを見つけて、協力しよう

友達の良いところをたくさん見つけて、お互いに協力し合いましょう。

③ 自分の頭で考えて、チャレンジしよう

人に教わる前に、まず、自分の頭で考えましょう。そして、自分はどんなことがしたいのか、自分はどうしたらいいのか考え、いろんなことにチャンス・チャレンジ・チャレンジを意識して頑張らしましょう。